

富士川懐古（榛葉竹庭）

斜陽激瀼落川湄 聞道水禽攘銳師
恨殺西軍兵十萬 箇中無復一男兒

斜陽 激瀼として 川湄に 落つ

解説 夜、源氏の軍隊の行動に驚いて飛び立った水鳥の羽音に、源氏の来襲と誤信した平軍は、群れを乱して潰走した戦いを詠った詩。

聞道 水禽 鋭師を 攘うと

語釈 ※激瀼 波が日に映じてきらめくさま。 ※川湄 川のほとり。
※聞道 聞くところによると。 ※水禽 水鳥。 ※鋭師 精鋭な軍隊。
※恨殺 ひどく恨むこと。 ※西軍 平家の軍。 ※箇中 この中。
※一男兒 一人の勇者。

恨殺す 西軍 兵 十萬

通釈 夕陽が川畔に景を落として頻に波を煌めかせている。聞くところ

箇中 復 一 男兒 無きを

によれば治承の昔、水鳥が精鋭な軍隊を追い払ったと云う。所で、平家の軍はその数十万を数えたと伝えられているが、この中に一人の勇者も居なかったとは誠に残念なことであった。